

## 与謝野町地域公共交通会議協議会（ネットワーク全体の評価）

### 1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

#### 公共交通の将来像

生活交通確保維持改善計画【地域内フィーダー系統確保維持計画】

「与謝野町の公共交通は、丹後地域唯一の鉄道である京都丹後鉄道宮豊線と丹後海陸交通株式会社が運行する路線バスにより構築されている。京都丹後鉄道宮豊線は町内唯一の駅である与謝野駅を中心に町域を横断する形で運行されており、一方、路線バスは岩滝地域を中心に宮津市、伊根町を阿蘇海沿いに結ぶ系統と、岩滝地域、野田川地域、加悦地域と町域のほぼ中心を縦断する系統となっている。これらの路線バスは、本町のみならず近隣の市町との地域間の輸送手段として地域間幹線系統の役割を担っており、特に高齢者、通学者が利用している。

しかし、幹線から離れた地域においては、自家用自動車を中心とした移動にならざるを得ないものの、人口減少、高齢化が進行しており、買い物、通院等の生活に必要な交通手段の確保が求められている。

このため、本事業では、これらの幹線から離れた地域に居住している住民の日常生活に必要な交通手段を確保するため、幹線へアクセスする路線バス運行に取り組むものである。

#### 公共交通ネットワークのイメージ図

※別添で添付して下さい。

### 2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

奥滝線、加悦奥・石川線、岩屋線の合計利用者数が延べ人数 3,900 人となる。

### 3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

## (1) 取組経緯

与謝野町の南北を縦断する幹線道路から離れた地域と路線バス（幹線系統）とを接続させるバスとして平成21年3月16日から町営により運行を開始。  
3年間の実証運行を経て平成24年3月17日から本格運行を開始。

協議会の開催状況と主な議論

### 【与謝野町地域公共交通会議】

平成24年2月6日 コミュニティバスひまわり運行計画の変更を承認

平成24年度地域内フィーダー系統確保維持計画の変更を承認

平成24年5月23日 平成24年度地域内フィーダー系統確保維持計画の変更を承認

平成24年6月27日 平成25年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認

平成25年2月22日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価

平成25年5月27日 平成26年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認

平成26年2月18日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価

平成26年6月26日 平成27年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認

平成27年1月29日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価

平成27年6月24日 平成28年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認

平成28年1月25日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価

平成28年6月27日 平成29年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認

平成29年1月23日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価

平成29年8月23日 平成30年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認

平成30年1月25日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価

平成30年6月25日 平成31年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認

平成30年10月22日 人口減少時代の新しい地域公共交通の検討の必要性の確認および方向性の決定

平成30年12月25日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価

平成31年2月21日 路線バス（地域間幹線系統）再編の確認および方向性の決定

令和元年5月20日 令和2年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認

令和2年2月18日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価

令和2年6月20日 令和3年度地域内フィーダー系統確保維持計画を承認

令和3年1月29日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価（書面）

令和3年6月24日 令和4年度地域内フィーダー系統確保維持系統計画を承認

令和3年12月1日 コミュニティバスひまわり運行実績の確認及び事後評価

令和4年3月3日 京都府北部連携都市圏地域公共交通計画の策定を承認

令和4年3月8日 宮津市（養老・日ヶ谷・世屋地区）公共交通空白地有償運送における与謝野町内への乗り入れについて（書面）

令和4年5月13日 与謝野町地域公共交通計画の策定に向けて

令和4年6月21日 令和5年度地域内フィーダー系統確保維持系統計画を承認

令和4年9月9日 宮津市（養老・日ヶ谷・世屋地区）公共交通空白地有償運送における与謝野町内への停留所の新設について（書面）

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
地域内フィーダー系統補助事業	与謝野町	R3.10 ～R4.9	フ	路線バス（幹線系統）から離れた地域で、コミュニティバスを丹後海陸交通㈱へ委託して運行。

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業  
利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
なし			

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
なし			

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
独自の時刻表の発行	鉄道や路線バス（幹線系統）も含めた公共交通のネットワークが一目で分かる公共交通マップ・時刻表を作成して施設に配架。	奥 滝 線、 加 悦 奥・石川線、岩屋線の合計利用者 延 べ 人 数 3,900 人
利用者アンケート等の実施	利用者の乗降調査および聞き取り調査、区長連絡協議会での実績報告・意見聴取をおこなった。	
自動車運転免許の自主返納支援事業との連携	運転免許を自主返納した高齢者のうち希望者に対し、代替となる交通手段として、コミュニティバスの回数券等を配布した。	

#### 4. 具体的取組に対する評価

対象期間における年間利用者数（3路線合計）は3,747人、年間運輸収入は669,501円であった。

路線ごとの実績は次のとおり。

路 線	R5 年度実績	前年度実績
奥滝線	1,508 人	1,576 人
加悦奥・石川線	1,470 人	1,497 人
岩屋線	769 人	1,160 人
合 計	3,747 人	4,233 人
目標値	3,900 人	
達成率	96.08%	

奥滝線、加悦奥・石川線、岩屋線の3路線合計が3,900人となることを目標としていたが、達成率は96.08%と少し届かなかった。目標値の設定についてはR5年度年間見込み値に5%の回復を見込んだ数字としていたことから、見込み値通りの結果となったとも考えられ、社会減や新型コロナウイルス感染症による外出控え等などの影響よりまだ回復が見られないと言える。

路線ごとで見ると、奥滝線、加悦奥・石川線は、前年度から大きな変化はなく維持ができているが、岩屋線は前年度の3分の2まで落ち込んでいる。これは年間を通して毎月の利用者数に大きな変化がなく、週に複数回乗車される利用者数や新規の利用者数が低調だったことが要因の一つだと分析するが、利用者数が減少した直接の理由まで詳細な分析はできない。

令和5年度においてはダイヤ改正による変更、便数や停留所についても変更がなかったことからバス環境としては前年度から大きな変化がなかった。岩屋線の利用者増、奥滝線、加悦奥・石川線は利用者を維持できるよう、利用者調査などから少しでも利用者増につながるような取り組みがあれば改善する必要がある。

#### 5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
更なる生産性の向上	路線バス（幹線系統）の見直しと合わせた、路線・ダイヤ等の検討
既存利用者数の維持	利用しやすいバス停乗降場所へ新設、移設の検討
新規利用者の獲得	運行ルートの再編 各戸への広報・利用の呼びかけ

## 与謝野町地域公共交通会議協議会（これまでの経緯）

### 1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>新型コロナウイルス感染症の影響もあり、予定されていた事業が実施できず、目標は達成できなかったものの、前回の事業評価以降、様々な取組を実施していることは評価できる。</p> <p>一方で、各取組について、目標達成度合いを評価する指標（KPI）をそれぞれ定めて、各々評価することで、より効果的な取組となることを期待する。</p> <p>また、例年実施していた高校進学の通学時に使用できる公共交通のダイヤを紹介したチラシの各中学校への配布が、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となったとあるが、例年と時期をずらして配布するなど、可能な限り、継続的・効果的に実施されることを期待する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により利用促進の推進が難しくなり対応に苦慮した。</p> <p>各取組に対する目標達成度合い（KPI）の設定について、路線再編等の予定もなく利用者へのアンケートや聞き取り調査等も行ったが、利用者ニーズにも大きな変化がなかったため、目標設定にまで反映が出来ていない。</p> <p>既存事業を計画通りに実施可能な形に修正を加えたため、事業が実施できた。</p>	<p>バス乗降調査や利用者への聞き取り調査など、利用者ニーズに即した路線の確立等により生産性の向上を図るとともに、バス停乗降場所への新設や移設、これまで利用をしなかった方にも利用しやすいようなダイヤ設定を引き続き行うことで利用促進に努める。</p>

### 2. アピールポイント、特に工夫した点など

運行期間中におけるバス路線再編など大きな変化もない年であったため、利用者への聞き取りやアンケートなどにより利用しやすいダイヤ設定など、移動ニーズに即した路線となるよう改善を図った。

また、過去から継続して実施している町交通安全担当部署と調整し、高齢者の運転免許自主返納支援事業での乗車券の配布など、他部署・機関と連携した利用促進を計画・調整し、引き続き実施した。

一方で、これまでから新型コロナウイルス感染症の影響から、実施が出来なかった中学卒業予定者への時刻表の送付や乗り方教室のような事業などの利用促進施策を見直し、本年度は実現可能な事業を実施した。今後についても可能な方法で適切なタイミングで広報や利用促進施策を実施したい。

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名:与謝野町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
丹後海陸交通株式会社	鹿ノ熊～山河公民館～加悦庁舎～野田川庁舎の運行	新型コロナウイルス感染症の影響により利用促進の推進が難しくなり対応に苦慮した。 各取組に対する目標達成度合い(KPI)の設定について、路線再編等の予定もなく利用者へのアンケートや聞き取り調査等も行ったが、利用者ニーズにも大きな変化がなかったため、目標設定にまで反映が出来ていない。 既存事業を計画通りに実施可能な形に修正を加えたため、事業が実施できた。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	奥滝線、加悦奥・石川線、岩屋線の3路線合計が3,900人となる目標に対して、延べ利用者は3,747人となり、達成率は96%で目標は達成できなかった。  バス乗降調査や利用者への聞き取り調査など、利用者ニーズに即した路線の確立等により生産性の向上を図るとともに、バス停乗降場所への新設や移設、これまで利用をしなかった方にも利用しやすいようなダイヤ設定を引き続き行うことで利用促進に努める。
丹後海陸交通株式会社	岩屋上～野田川庁舎～ウイル		A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	
丹後海陸交通株式会社	加悦奥十番組～野田川庁舎～川上上～香河上～加悦庁舎の運行		A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名：	与謝野町地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）
地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	<p>与謝野町の公共交通は、丹後地域唯一の鉄道である京都丹後鉄道宮豊線と丹後海陸交通株式会社が運行する路線バスにより構築されている。京都丹後鉄道宮豊線は町内唯一の駅である与謝野駅を中心に町域を横断する形で運行されており、一方、路線バスは岩滝地域を中心に宮津市、伊根町を阿蘇海沿いに結ぶ系統と、岩滝地域、野田川地域、加悦地域と町域のほぼ中心を縦断する系統となっている。これらの路線バスは、本町のみならず近隣の市町との地域間の輸送手段として地域間幹線系統の役割を担っており、特に高齢者、通学者が利用している。</p> <p>しかし、幹線から離れた地域においては、自家用自動車を中心とした移動にならざるを得ないものの、人口減少、高齢化が進行しており、買い物、通院等の生活に必要な交通手段の確保が求められている。</p> <p>このため、本事業では、これらの幹線から離れた地域に居住している住民の日常生活に必要な交通手段を確保するため、幹線へアクセスする路線バス運行に取り組むものである。</p>